



2025年 1月号

発行 者

天理市人権問題啓発活動推進本部

本部長 天理市長

事務局 人権センター

## 外国人の人権について

埼玉県川口市では、地域住民とクルド人の方々の間に摩擦が生じていることはニュースや新聞でご承知の方も多いのではないのでしょうか。

少し前に、その川口市において、クルド人排斥などを主張するデモの差し止めを求めた仮処分申請が行われましたが、さいたま地方裁判所は、その申し立てを認める決定を出しました。

クルド人を巡っては、「ごみ出しのルールを守らない」とか「夜遅くまで飲酒して騒いでいる」といった習慣やルールを知らなかったことによるトラブルなどからはじまり、クルド人同士の男女関係のもつれから起こった事件により、多くのクルド人が病院前に殺到し、救急の受け入れが5時間以上ストップする騒動があり、その様子がSNSなどで拡散されたことをきっかけに2023(令和5)年ころからSNS上で差別的な内容の書き込みが増加し、埼玉県内でデモが行われるようになったそうです。

ごみ出しのルールなどは、自治体に転入されたときに曜日や分別のしかたを書かれた案内チラシを受け取ると思います。これなども、日本語だけで書かれたものではなく、外国語で書かれたものも用意されていたり、外国人向けのサイトを立ち上げ、多言語で生活ルールや相談窓口を案内するなどしています。



私はこのクルド人のニュースを聞かたび、あつれきなぜもっと軋轢が生まれない方法がなかったのかな、もっと話し合いをする機会が持てなかったのかなと思っています。

# てんいち先生

もし私たちが外国に長期滞在することとなり、外国で生活することになったらどうするか想像してみてください。言葉も分からない、生活ルールも分からないとなれば、当然戸惑うと思います。よく「日本に来るなら日本語が分かるようになってから来い」とか一方的な発言をしている様子も見受けられますが、これは如何なものでしょうか。私たちが外国に行ったとき同じようなことを言われるとどう思いますか。外国に行けば、私たちは外国人であることを忘れてはいけません。

お互いを理解し分かり合うために、真に多様性のある社会を望むのであれば、お互いの考え方の違いや差を埋めるためにも、話し合いや交流をするべきではないかと思います。外国人に限らず、他者を理解するという事は難しく、理解しあうためには、相当な時間と努力が必要になるでしょう。だからこそ、育った環境や文化の違う者同士の場合にはもっと話し合いやお互いを理解しあう機会が大切ではないかと考えます。話し合うことで違いが分かり、お互いに理解が進み、さらにより良く知ることができるようになれば、<sup>あつれき</sup>軋轢も無くなると思うのですが、皆さんはどのように思われますか。

